

持続可能な利用で勉強会

地下水研究会

友利さん、農薬含有原水の浄化で講話

市内で採取した水道水から微量の農薬成分が検出されたことを受けて、宮古島地下水研究会（友利直樹、前里和洋、新城竜一共代表）は1日、市民や市議会と「持続可能な地下水の保全と利用および持続可能な市民の健康のための勉強会」を市内で開催した。

勉強会では、同研究会の

共同代表で医学博士の友利さんが「ネオニコチノイド系農薬含有原水の高濃度浄化処理法 高機能活性炭処理による浄化」と題し講話した。

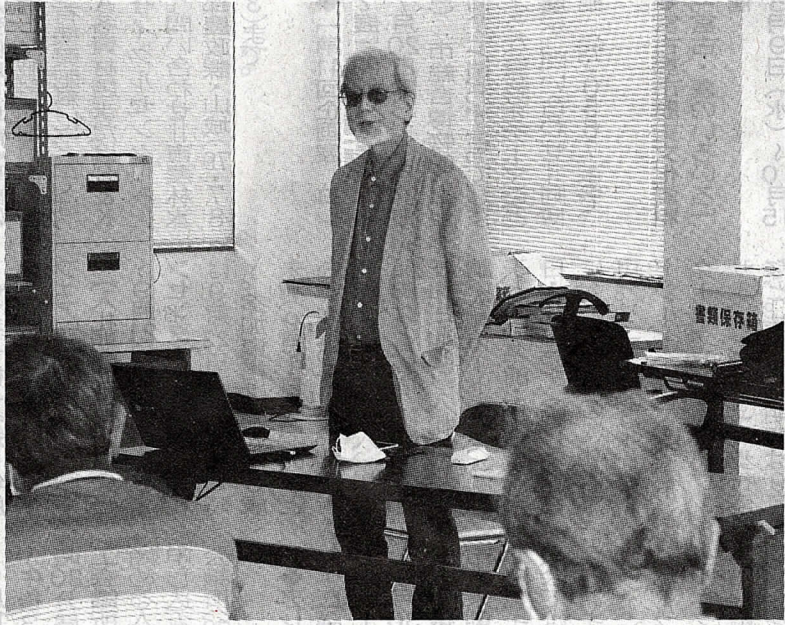
活性炭とは木炭や石炭を約900度の高温で蒸し焼きにして作る多孔質の炭。家庭用浄水器や空気清浄機に利用されている。

活性炭処理でネオニコチノイド系農薬のジノテフランは60〜80%、クロチアジンでは75%除去された実績が神奈川で確

認されていると話し、友利さんは「2002年のデータで活性炭処理を導入している自治体は179カ所あるので、今ではもっと増えていると思う」と強調した。

勉強会に参加した来間島で、小麦やラッキョウを育てているという70代の男性は「畑の作物に安心して水がかけるのではないかと不安に思い勉強会に参加した」と話した。

同研究会は今後、給食センターで扱う島内産の野菜を分析検査に出すとしている。友利さんは「結果が出たら今後また勉強会の場を設け皆さんに報告したい」と話した。



農薬含有原水の浄化処理法について語る友利さん
11日、県農業共済組合宮古支所